

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175300391		
法人名	社会医療法人 明生会		
事業所名	するーらいふ台町		
所在地	網走市台町2丁目7番4号		
自己評価作成日	令和4年11月1日	評価結果市町村受理日	令和4年12月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問看護との医療連携</li> <li>・受診、入院の医療連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の気付きを基にしたアセスメント、ケアプラン</li> </ul> </li> <li>・運営推進会議の活用で、台町地区高齢者支援と協力体制の構築</li> <li>・網走市市民活動センターと協同し、ボランティア活動の受入れ実施</li> <li>・地域の学生に対して、福祉を学習・体験する場を提供</li> <li>・地域の学生に対して、福祉を学習・体験する場を提供</li> <li>・家族会と協力し、サービスの質を向上</li> </ul>
--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://mhiv.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0175300391-00&amp;Se">mhiv.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0175300391-00&amp;Se</a>
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和4年11月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>網走市の高台にあるするーらいふ台町は平成17年に開設でデイサービスを併設した2ユニットで母体は医療法人であり、訪問介護やリハビリ、介護老人保健施設等のサービスを行っています。利用者の尊厳を守り「ゆったりとぬくもりのある時間を過ごす……」の理念に基づき個々の利用者認知症の現状に即した豊かな暮らしを提供しています。職員には利用者の向き合い方、接し方などを悩みながら学ばせていく”認知症に向き合う事業所”となっています。認知症の進行を遅らせていく効果を熟知し、毎日の当たり前前の生活行動の保証と安心して居られる居場所作りを支援しています。言葉や道具による行動抑制の問題点を深く学びロックゼロを目指しています。また、職員のスキルアップに繋がるように、1年間の内部研修の他、ステップアップシートを作成し、職員の自身の目標や課題を確認しながら、面談を実施し職員の育成を図っています。また、外国人技能実習生の配置受け入れで、職員全体で公私に渡り面倒を見ながらスタッフの一員として受け入れ、本人の意欲に繋げています。看取りの際は職員に看取りに入る前の利用者の手順、状況・過程・予測について十分な説明と明確化を行い、看取り後についても反省・職員のアフターケアを行い利用者に向けた看取り介護を目指しています。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている ○ 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・頭にありますが、日々業務に追われる時が多い。理念は大切に考えています。</li> <li>・実践に難しいときがあるが年頭において、進めるよう心がけている。</li> <li>・安心して穏やかにゆっくりと生活していけるよう心掛けている。</li> <li>・念頭において心掛けている。</li> <li>・気にかけているが実践に繋がらされている事が少ない。</li> </ul>	理念は玄関前に掲示しており、出退時に確認と振り返りを職員に促しています。また、パンフレットにも記載しています。施設長、管理者、職員は、日々「利用者の思い」を拾い上げ、利用者本位となるように努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で行えてませんが、向かいの近所の方とは畑づくり等交流があります。</li> <li>・地域の交流は行えていない。</li> <li>・特定の近所の方とは比較的交流を維持できている。</li> <li>・出勤時、退勤時にあいさつを心掛けている。</li> <li>・今まで行っていた地域参加型の避難訓練や認知症カフェ等コロナ禍において行われていない。</li> </ul>	運営推進会議の資料の報告は、2つの町内会長に郵送しています。近隣では、散歩や畑で出会う時には挨拶を交わしています。また、畑の草むしりや畑づくり、野菜作りなど今年度も近隣住民の自発的な協力を得て実現しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で実践できていない。</li> <li>・認知症サポーター養成講座の実施を例年行っていたがコロナ禍でできていない。</li> </ul>		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集まる事は出来ていないが書面にて発信はしている</li> <li>・書面での理解程度。</li> <li>・理解を深める努力はしている。</li> <li>・コロナ禍にあり参加者が集まって話し合う機会はもてていない。書類での開催にとどまっているが、GHとのつながりは断たないよう努力はしている。</li> </ul>	2ヶ月毎の運営推進会議は書面会議で、認知症への理解を基に開かれた事業所として、利用者状況、ヒヤリハット、事故報告、研修会、事業所状況等を運営推進委員に(町内会長、民生委員、家族代表、護福祉課、地域包括支援センター)と利用者家族に配布しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営、サービスの相談を密に行っている。運営会議のメンバーにもなっている。</li> </ul>	運営推進会議やコロナ感染予防対策、介護保険改定等の情報、相談等をメールや電話で行い良好な関係構築を図っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やむを得ない場合のみ対応して家族の同意を得て行っているが、必要性は定期的に評価している。できる限り拘束はしないよう取り組んでいる。</li> <li>・本人に危険がある場合、家族の同意をもって行う事もある。</li> <li>・身体拘束品をしなくても良い方法をスタッフ間で話し合う。</li> <li>・行動を見守り本人の意志を尊重している。</li> <li>・理解しケアに取り組んでいると思います。他スタッフとも話し合うこともできている。</li> </ul>	<p>高齢者虐待防止に関し、ロックゼロ委員会として、連絡推進会書面会議で報告しています。研修会はオンデマンド研修で特に施設長と管理者は馴れ合い的な言葉使いに気を付け、固定観念を除去し、利用者の表情や精神面に重点を置き尊厳をもって接するように指導しています。また、認知症における身体拘束(スピーチロックを含め)の弊害について、アンケートを行い、日々の職員の行動を振り返るように取り組んでいます。</p>	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勉強会、アンケート、講習で学んでいる。スタッフ同士、虐待に繋がらないよう協力し合い、精神面もフォローしあっている。</li> <li>・言動に注意し、勉強会やアンケートで虐待がおこらないよう防止に努めている。</li> <li>・オンライン学習で高齢者虐待防止を学び、防止に努めている。</li> <li>・気かけながら言動に注意している。感情に流されないよう注意する。</li> <li>・オンデマンド研修等から再認識する機会があった。時々、業務的口調で話してしまう事がある。</li> </ul>		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会等で学んできましたが、仕事として携わっていません。</li> <li>・施設内研修に参加し、学ぶ機会がある。</li> <li>・地域包括センターとの連絡体制が構築されており相談体制を確立している。年一回、職員への権利擁護の研修会を開催している(今年はオンデマンド)</li> </ul>		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居時、利用者や家族の不安な事や意向を聞き取れるよう努めています。</li> <li>・家族から質問等があればホーム長やケアマネに相談しながら説明している。</li> <li>・入居、退去時や契約内容の追加がある場合はその都度、説明し契約を結んでいる。</li> </ul>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> <li>連絡カードや申し送り等でスタッフ間で共有している。本人や家族の思いを察し対応できるよう努めている。</li> <li>利用者や家族からの要望はリーダーやスタッフに伝えている。</li> <li>内容によっては申し送りの記録に残す。または、メモや連絡カードを利用。面会時には家族からの意見の確認をしている。</li> </ul>	面会制限の中、面会時や家族との電話連絡、差し入れ等の来所時に意見・要望を引き出すように努めています。頂いた意見・要望は業務カードや朝のミーティングで全職員に報告され運営に反映させています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミーティングなどで意見や提案を発言しやすいし、聞く機会を設けている。</li> <li>積極的な意見、提案は行っていない。</li> <li>管理者が運営に関する職員の意見や提案を聞く機会があり発言しやすい環境にある。</li> </ul>	毎日のミーティングで利用者に関する事や職員の意見、要望などを聞き運営に活かしています。内部研修が計画され、利用者の介護サービス向上に努めています。福利厚生を充実しており、休暇も取得しやすい職場環境になっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>努めている。</li> <li>人事考課を実施して年度末、面接評価を実施している。</li> </ul>		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設内研修に参加している。</li> <li>おはよう21を読んでいる。</li> <li>自身は積極的な学習に取り組めていない。</li> <li>職場内の研修や外部の研修に参加できている。</li> </ul>		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ状況で難しい。</li> <li>交流はできていない。</li> <li>コロナ禍で交流はもてていないが施設内では、スタッフの交流はできていると思う。</li> </ul>		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>家族からもどう生きてこられたのか等出来るだけ聞き取り、本人とも会話を多くもって、本人を知ることで心を開いて頂けるよう努めています。</li> <li>本人の話を傾聴している。</li> <li>本人に寄り添い傾聴し、まず安心して頂けるよう努めている。</li> <li>よりよい安心感をもってもらえるよう対応している。</li> </ul>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族が言いづらい不安や要望等を聞き出せるよう、話しやすい雰囲気心がけています。</li> <li>・家族が話しやすいよう心がけている。</li> <li>・来所された時は様子を伝え、コミュニケーションができるよう努めている。</li> <li>・思いを聞こうと努力している。</li> <li>・少ない機会の中コミュニケーションを意識している。</li> </ul>		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人、家族の言葉から気持ちを察し必要としている支援を見極められるよう努力しています。</li> <li>・普段の様子、変化がある事等伝えるよう努めている</li> <li>・要望等言いやすい雰囲気心掛けています</li> <li>・対応時のコミュニケーションに努力している</li> </ul>		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の能力を把握できる事の支援で持ちつ持たれつの関係を意識して、小さな事にも感謝を伝えるようにしています。</li> <li>・スタッフと相談しながら不安点等改善できるよう努めている。</li> <li>・自尊心を尊重し教えてもらった事は感謝の言葉を伝えている。</li> <li>・暮らしを共にするもの同士の関係は築けていないと思う。「すまないな～」の言葉が漏れる。</li> <li>・入居されているほとんどのの方が「施設」との認識が強くうまく関係を築けていないと感じる。</li> </ul>		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人の様子をできる限り伝えたり、面会、電話、手紙、買い物等の支援をお願いし、繋がりを保てるよう家族にも協力の依頼をしている。</li> <li>・嗜好品等聞き提供している。</li> <li>・自身の身内だったらと考え行動している。</li> <li>・本人の好物を聞いたり、家族からの提供物を渡したりして、繋がりを意識している。</li> <li>・生活に必要な物の購入依頼に加え、電話で話す機会を作っている。</li> </ul>		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なるべく行きなれた美容室に通えるよう家族の協力も得て支援している。</li> <li>・コロナ禍で難しい。</li> <li>・今のご時世なかなか実行できないが、できる事を見つけ行っている。</li> </ul>	今年度は玄関のドア越しで30分程度の面会制限で、予約での知人等の面会も支援しています。お墓参りの外出は出来ませんが、電話や手紙の投函支援を行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>一部の利用者さんたちですが、毎日の食器拭きや洗濯物たたみを一緒に行ってもらっている。</li> <li>気の合う利用者同士おしゃべりできる場所を提供している。</li> <li>気の合う入居者同士のおしゃべりや体調不良の時の心配など、入居者どうしが支えあっていると思うが全員ではない。</li> <li>入居の状態、気分等に合わせてタイミングを見ながら交流や一人の時間を作り関係が維持できるよう工夫している。</li> </ul>		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談はないが今も数名関係を維持している。</li> <li>あいさつ程度はしている。</li> <li>フォローや相談はないが亡くなった後もホームに顔を出してくださるご家族もいる。</li> </ul>		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	<ul style="list-style-type: none"> <li>申し送り等で意向の把握。困難な場合は表情等で判断している。</li> <li>会話が難しい方はスタッフ間で相談したり、ケアプランで判断している。</li> <li>ケアプランや申し送りで意向の把握をしている。</li> <li>家族の思いも参考にしている。</li> </ul>	利用前に事前に聞き取りを行っていますが、現在どの様に暮らしたいのか、生活への希望を日々の様子や表情、本意等を丁寧に聞き出すようにしています。また、日々の会話の中から、利用者の想いを引き出し、朝のミーティング等で職員同士情報を共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>家族や本人に聞いたり、ファイル情報を参考にしている。</li> <li>本人の話聞いて確認している。</li> <li>ファイルを見返し、生活環境や習慣等を把握している。</li> </ul>		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>記録、連絡カードで確認している。ミーティングや申し送りでも確認し、いつもと違う様子を早期に気づけるよう観察している。</li> <li>記録や申し送り時確認している。</li> <li>記録、スタッフの話、カンファレンス、ケアプラン等から情報収集し、現状把握に努めている。</li> </ul>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体能力の維持の為、作業療法士と相談している。家族のできる支援を家族と相談しカンファレンス内容に活用している。</li> <li>・今の状態を記録に残し統一したケアをしている。</li> <li>・日常の動作や言動を記録に残し、統一したケアを考えている。</li> <li>・ケアマネを中心に各入居者の担当を決め、カンファレンスを行い相談しながら作成に関わっている。</li> </ul>	3か月ごとに見直しを実施しています。朝のミーティングでカンファレンスを行い、利用者の状況がどうであったかを現場の声を反映し具体的に個別のサービス内容に盛り込み、本人・家族の意向を取り入れ計画作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミーティング等で情報を共有し、食事、水分量の把握し改善できるよう工夫している。</li> <li>・日常の様子や言動など記録に残し、情報共有している。</li> <li>・個別の記録を残し、変化や気づき等は朝のミーティング時情報共有している。</li> <li>・日報、カンファ、記録、ミーティング等活用している。口頭で伝達する方がすぐに反映されやすい場合もある。</li> </ul>		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタッフ間で話し合い、その時々の変化に試行錯誤して対応している。</li> <li>・リハビリスタッフ、訪問看護と個々の体調管理、筋力の低下等相談し対応している。</li> <li>・多職種との連携やホーム長、事務職員含め取り組んでいる。</li> </ul>		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部との接触ができなくなり買い物等の支援は難しくなった。</li> <li>・コロナ禍の今は難しい。</li> </ul>		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人、家族の意向を大切に受診の援助をしている。家族にも必要時は同席をお願いしている。</li> <li>・本人や家族の希望をもとに受診支援をしている。</li> </ul>	希望するかかりつけ医の受診は、家族の同席が必要な場合を含め基本事業所が行っています。月1回の訪問診療や週1回の作業療法士によるリハビリと訪問看護師、毎月の口腔ケア等により利用者の健康管理に努め利用者家族の安心・信頼関係に繋げています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受診した記録、情報を訪問看護に提供している。随時相談し適切な対応ができるようにしている。体調変化、排便コントロールいつでも相談。</li> <li>・体調変化など気になる事は相談している。</li> <li>・訪問診療等で適切な環境である。</li> <li>・情報提供し心配や気になる点は確認、相談し支援に繋げている。</li> </ul>		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・退院後も以前の生活に戻れるよう支援している。入院時の情報を家族、関係機関と確認している。</li> <li>・家族やホーム長、ケアマネから情報収集し、気になる点は確認している。また、電話で入院先のNSIに確認している。</li> </ul>		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族、訪問診療、訪問看護と連携をとり話し合いを続けながら、その人にあった迎え方に取り組んでいる。</li> <li>・理解に努め取り組んでいる。</li> <li>・適時ケアマネが新たに意向確認書を作成している。</li> </ul>	契約時に重度化指針に基づき看取りについて十分な説明しています。医療が常に必要となった場合など状態変化に応じて、本人及び家族の意向を踏まえ、主治医や関係機関とも相談しながらチームとして最善の支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・救急救命講習を受講。</li> <li>・動画等で学習は必要。</li> </ul>		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時のBCP作成に取り組んでいる。年2回火災における避難訓練を実施し、運営推進会議を通じて町内会へ報告し協力体制を築いている。</li> <li>・火災における避難訓練を行っています。</li> </ul>	年2回昼夜想定で、消防立ち合いの基で火災避難訓練を実施し、水消火・火災報知器を含め訓練しています。停電に対応できるように、非常用大型発電機を設置し、備蓄の不足分については順次整備しています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居者一人ひとりの人格を尊重し対応している。</li> <li>・一人ひとりにあった音量、言葉がけをしている。</li> <li>・声のトーンや話しやすい目線に合わせている。聞き取りやすいようゆっくり話している。</li> <li>・一人ひとりにあった声掛けをし、不快にならないよう気をつけている。</li> <li>・個々によって柔軟に対応している。</li> </ul>	基本〇〇さん付けで、愛称などは本人や家族の希望で了承を得ながら行っています。尊厳を維持しつつ、安全面や精神面で利用者本人が必要とした場合に限り馴れ合い的な言葉かけの支援ができるように利用者の表情の変化に気づけるよう指導しています。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思いや希望を傾聴して納得できるよう努力している</li> <li>・本人の思いや意志を傾聴しながら行動している。</li> <li>・本人の思いや希望を傾聴してから促している。</li> <li>・何気ない事でも本人に決めてもらえるよう2択にしたり、個々に合わせて働きかけている。</li> </ul>		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人のペースには合わせているが食事時間が希望に沿わない事もある</li> <li>・食事は個々のペース優先しているが意欲低下し臥床している方が主なため1日のスケジュールは職員主導になってしまう。</li> </ul>		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人の希望を聞きながら着替えを準備したり、汚れた際はすぐ取り換えるよう配慮している。</li> <li>・本人の着たい服を一緒に選んでいる。</li> <li>・散髪や爪切りがうまくできず不十分。</li> </ul>		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・畑で取れた野菜の下処理や行事でおはぎ、あんころもち作り等一緒に楽しく行っている。</li> <li>・できる範囲でのお手伝いをお願いしている。</li> <li>・盛り付け、食器拭き、布巾たたみ、等役割を持って頂き日々の生活として繋げている。</li> <li>・好物を献立に取り入れている。盛り付けや食器拭き等できる事をして頂き日常生活の向上に繋げる。</li> <li>・盛り付けが得意な方をお願いすると美しく盛り付けて下さり見た目でも楽しめる片付けは一つの役割として日々の生活に繋げている。</li> <li>・時折、出前メニューなどで楽しみをもってもらえるようにしている。</li> <li>・手伝い時も楽しくできるよう配慮している。</li> </ul>	<p>毎月のメニューを作成していますが、ユニット毎で、利用者の体調やその日の気温によりメニューの変更も行っています。利用者は下ごしらえ、配膳、茶碗拭き等出来る事を行っています。家族からの鮭や野菜等の差し入れも多く、食材やおやつに利用しています。誕生会では利用者のリクエストにより提供し、家族からはケーキやプレゼントが届くことがあります。職員と一緒に餃子やホットケーキ、おはぎ、漬物を作ったりと楽しく喜びを感じてもらえるよう取り組んでいます。</p>	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事量は個々の状態に合わせて支援している。食べやすい形状で提供したり、水分は嗜好品について家族に協力して頂いている。</li> <li>・その人にあった形状で提供している。目標水分量をできるだけ摂取して頂けるよう支援している。</li> <li>・献立を決める際には食材が重複しないよう工夫している。ここに合わせたゼリーを使用、スプーンを使用し提供の仕方に工夫している。</li> </ul>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎食後はできていない。起床、就寝時に行っている。</li> <li>・本人の状態によりできない日もある。</li> <li>・毎食後ではないが、義歯洗浄、口腔内洗浄を行っている。</li> </ul>		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訴えがあった時やトイレ誘導を促している。自立の方でも行動を見守って援助している。一人ひとりにあったパットやパンツを検討している</li> <li>・それぞれの排泄パターンに合わせてトイレ誘導や介助を行っている。</li> <li>・時間誘導してもうまく繋がらない方もいる為、個々に合わせ様子を見ながら声掛け誘導している。</li> </ul>	トイレでの排出を基本としており、自発的に行かれる利用者もありますが、職員は個々の排泄パターンを考慮し、表情や動作などに気を付け、周りに気づかれないようにさり気なくトイレに誘導しています。夜間はポータブルトイレを使用している方もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々にあった下剤調整。腹部マッサージや乳酸飲料等で工夫している。</li> <li>・個々に合う便秘時の対応を考え、オリゴ糖や乳製品などで予防や対応をしている。</li> </ul>		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週二回は入浴を行えている。個人の体調にも配慮している。</li> <li>・本人の希望を聞き時間をずらしたり、リラックスできるように入浴剤を入れている。</li> <li>・週二回の入浴日は決めている。時間帯も日中になっているが、一人ひとりがゆっくり浸かって頂けるよう配慮している。本人の意向に合わせて過ぎて週一回になってしまう時もある。</li> <li>・曜日指定は難しいがAM、PMの変更は可能。</li> </ul>	週2回を基本とし、利用者の状況に応じ、ゆったりと入浴を楽しめるように季節や気分転換の配慮から入浴剤を使用しています。中には1人で入浴を楽しむ利用者もあり、安全面を考慮した見守りを行っています。職員は、気持ちよく入浴できるような雰囲気づくりを大切にしたい声かけを行っています。また、浴入拒否の場合は、職員の変更や気を紛らすことを心掛けています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりの時間に合わせて就寝している。</li> <li>・その人にあった時間に居室に戻り就寝される。体力が持たず疲れてしまう方は日中でも休まれる方もいます。</li> <li>・できる限り対応している。</li> <li>・気持ちや習慣的なものを把握しながら対応している。</li> </ul>		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタッフ二人で確認し、内服支援している。変更がある時は申し送り共有している。薬の効果はおおまかに理解しているが、確認したいときにはかかりつけ薬局に問い合わせしている。</li> <li>・頻繁に調整があると覚えきれない時がある為、薬表や受診記録を見て確認に努めている。</li> </ul>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外食できないので、時々出前をとって喜んでいただいている。</li> <li>・気分転換にドライブに出かけている。茶碗拭きや洗濯物たたみで役割をもって過ごしている。</li> <li>・2Fに遊びに行ったりしているが毎日ではない。</li> <li>・家事作業も生活の日課、役割としてこなしているが役割が限られている。企画や誕生会など行事食で楽しみごとに繋げているが回数は多くない。</li> <li>・満足されるレクは実施できていないドライブに出掛けても時間が足りず反対に不満を感じさせてしまったりする。</li> </ul>			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドライブやドライブスルーを利用しスタッフが買い出しに行き、道の駅の団子等、食べたい物も楽しめるよう支援している。</li> <li>・外出できない事が多い。</li> <li>・希望に沿った外出はできていない事が多い。</li> </ul>	駐車で花火をしたりドライブで紅葉・赤珊瑚・道の駅でソフトクリームを食べたり利用者の楽しみとなるように支援しています。日常では、天気の良い日には事業所の周りや畑などの散歩を行い生活維持能力の低下とならないよう配慮しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で外出し買い物できていない。外出支援の延長線上でスタッフが代行する時もある。</li> <li>・お金を使う買い物はできていない。</li> <li>・受診時に院内のコンビニで買い物支援程度。</li> </ul>			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族への電話連絡の際も本人とかわりお話してもらったり、家族との繋がりを感じて頂けるよう支援している。</li> <li>・希望時、電話や手紙の対応をしている。</li> <li>・本人が不安など気持ちに合わせた連絡対応をしている。</li> </ul>			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トイレ等汚れていて不快にならないよう掃除や備品に配慮している。</li> <li>・リビングに來られた時は音楽を流すなど、リラックスできる空間にしている。夏場は花を飾り目でも楽しんでいる。</li> <li>・スタッフ同士での会話の声等、音が大きく、入居者に不快な気持ちを持たぬよう気をつけている。</li> <li>・季節あつた飾り付けで式や行事を感じる配慮をしている。</li> <li>・洗面所等のゴミ箱はこまめに捨て配慮している。</li> </ul>	認知症進行予防として利用者の話題を探り思い出を振り返り談話する機会を持つように季節感のある作品や多くの写真を展示していません。湿度・温度・音などに配慮し居心地の良い空間で、ゆっくりと過ごすことが出来る様に環境を整えています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居室で自由に過ごしたり、リビングも思い思い寛げる居場所を提供している。</li> <li>・お気に入りの場所や食卓席はほぼ指定席となり、それが安心、安定している。</li> </ul>		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族の写真等見やすい位置に飾ったり、個人に合わせた環境に取り組んでいる。</li> <li>・その人にあつた居室作りに配慮している。</li> </ul>	今までの生活習慣を継続できるよう、本人や家族の意向を尊重した支援に努めています。使い慣れた家具や仏壇などを持ち込み趣味の物や愛読書、アイドルのポスター、家族写真などを飾り、その人らしい落ち着いた生活空間になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人の歩行に合わせ机やいすを配置し、安全に移動できるように工夫している。</li> <li>・きっかけや声掛けで自立を促している安全には配慮している。</li> <li>・環境作りは努力している。</li> </ul>		